

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型  
平成 26 年度採択企画  
実施報告書

1. 企画名

地域の医療・教育・市民視点による科学技術双方向アウトリーチ活動の展開とその実現モデルの検証

2. 提案機関名

国立大学法人福井大学

3. 提案企画の概要

社会と共創し進める研究・政策の展開という観点から、双方向性を伴った研究者のアウトリーチ活動を実現するための手法の開発を目的として、本事業においてはその具体的な実践を行う。

- (1) 情報の発信者である専門家と受け手である非専門家との間にある科学技術コミュニケーションギャップの解明。
- (2) 科学技術コミュニケーションギャップの解明に向けたアウトリーチ活動の実践。
- (3) 市民からの反応を的確かつ迅速に研究者にフィードバックするための方法の試行。

以上を、地域特性を踏まえた大学と医療現場・大学と教育現場・大学と一般市民という3つの視点から、ワークショップ、サイエンスカフェ、市民対話を通じて実施する。

4. 企画の特徴

先行研究では、研究者と社会との間に壁をもたらしている原因として、従来は科学技術リテラシー、すなわち情報の受け手の問題として扱われてきた。

既存の取り組みとして、Citizenship の重要性が既に欧米ではアウトリーチ活動に対し大きな影響を与えている（2012 年度および 2013 年度の本企画申請代表者らの、Yale

University、Cornell University への視察等)。また国内においても加納圭らが「サイエンスカフェ参加者のセグメンテーションとターゲティング」を行っており、「科学・技術への高関与層」と「科学・技術への低関与層」の分析を行っている。

本企画はそれらの先行調査を踏まえた「エビデンスを伴った双方向性アウトリーチ活動システム」の実践であり、地方における国立大学を中心とした地域との関係性を再構築するものである。さらに将来的にアウトリーチの評価手法の研究、フィードバック手法の確立、マニュアルの作成という政策科学研究へとつながる点で、その意義は極めて高いものである。

本企画の具体的な活動では、コミュニケーション・ギャップの原因の解明を出発点として、双方向に重点を置く部分、つまり研究者と市民、双方の視点から効果的なアウトリーチの仕組みを提案することに新規性がある。また医学部と教育地域科学部、工学部の3大学を有する福井大学において、産学官連携本部を中心に全学の研究者が関与する点も特徴である。

以上のように扱うテーマは明確であるとともに、具体的な活動とその実践組織において全学的な取り組みであることから、本企画は極めて独自性の高いものである。

## 5. 総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

地域性を踏まえ大学と医療現場や、大学と教育現場など様々な視点から市民対話を通じて課題を解決していくという全体構想であり、参加者数としては中規模ながらワークショップの規模としては適正範囲であり、内容・結果ともに充実していると言える。短い期間に4回のアウトリーチ活動を実施し、今後の発展的な取組を目指して、イベント参加者へのアンケート、講師へのアンケートやヒアリングを分析し、成果および課題の検証に力を入れた点は評価できる。

今回の成果をもとに、各地でこのような実践活動が展開されるように周知も行っていただきたい。

## 6. 実施者からPR・感想について

全4回を実施し、総数149名に参加頂いた。話題提供講師から、双方向の議論を交わすことで、「ここまで考えているのか」「意外と興味を持ってきている」などの反応が見られた。双方向コミュニケーションは、講師の考え方に影響を与えることがわかった。

多様性から新たな発見やブラッシュアップがみられたことから、地域の活性化にとつ

て、双方向コミュニケーションの取り組みは有効的である。一方でデータが示す通り、参加者も不慣れである為、イノベーションを起こすほどの内容に至るには経験が必要と思われる。また回を重ねるごとに、主催者側が慣れることにより、参加者が変わっても、よりよい環境下で意見を出してもらえたり、場を和ませたり、次に発展しやすい環境に誘導したりできるようになった。このことは日本におけるファシリテート人材の育成の可能性を示唆する。

本企画により「自治体」「住民」「企業」「その他利害関係者」間の集合知の創出と合意形成等に関し、一定の成果を得られた。今後、市民からの反応を的確かつ迅速にフィードバックするための方法の構築をモデル化し、地域に根差した国立大学のあり方を調査研究していく。



1. 開会（挨拶）



2. 情報提供（講義1）



3. 情報提供（講義2）



4. セッション



5. 発表（各グループ代表者）



6. 閉会（まとめ）

[高校生と高校教員のための科学コミュニケーション]

以上